

平成 28 年度 第 2 回白馬高等学校学校運営協議会 議事録 (概要)

1 日 時 平成 28 年(2016 年) 7 月 20 日 午前 10 時～午後 12 時 10 分

2 場 所 教育寮「しろま Pal House」、白馬高等学校会議室

3 参加者 出席者 10 名 (欠席者なし)

この他、長野県教育委員会事務局高校教育課 2 名

白馬・小谷両村関係者 4 名

白馬高等学校関係者 3 名

寮関係者 2 名、白馬高等学校生徒 4 名



4 次 第

(1) 開会の言葉

(2) 長野県教育委員会挨拶 (今井高校教育課長)

(3) 白馬高等学校長挨拶

(4) 委員自己紹介 (前回欠席の松本委員、横川委員)

(5) 学校より現状報告、全国募集活動計画説明 (北村校長)

(6) 教育寮「しろま Pal House」の説明 (山口HM (ハウスマスター))

- ・国際観光科在籍の県外生 11 名 (男子) を含め 15 名が共同生活をしている。
- ・人間教育に重点を置いて、思いやりや自主性、協調性を育むことに力を入れている。寮での共同生活を通じて、寮生の自主性、自立 (律) 性が育ってきている。
- ・寮生の様子を理解してもらうために、地区の清掃や草刈り、ボランティアを兼ねた農業体験、観光イベント等にも積極的に参加し、地域住民との触れ合いを大切にしている。
- ・勉強について、成績を下げないように指導していきたい。夏休みは学校や塾の補習への積極的な参加、出された課題はすぐやることを意識させる指導をしたい。
- ・来年度 10 名の入寮者があれば、寮のキャパシティを超えるおそれがある。
- ・一人ひとりの居住スペースは最低でも 3.5 畳が必要、収納などのスペースも必要である。現状では厳しい状況である。また、食堂のスペースも 20 名超えるときつくなる。
- ・学校からの距離がもう少し近いと昼食の面 (お弁当を届ける手間) を考えると助かる。また、学校や役場との連絡が今まで以上にしやすいなど利点が多いのではないかと思う。
- ・ボイラーや電気設備の不備などの課題もあるので、寮改築等の際はハウスマスターも査察させてほしい。

(7) 寮の見学

(8) 寮関係者との意見交換

<横川委員> 収納などのスペースが少ないが、どうしているのか。

<山口HM> 自分で整理できるように棚などを個人で買って工夫している。

<横沢委員> お弁当の食材は地産地消を考えているのか。

<山口HM> 山菜や地域の郷土料理など子どもたちがありがたく食べるようにしている。栄養士とも連携を図りながら作っている。

<岸 委員> 人数が増えると居住スペースが過密になることについて、村はどう考えているのか。

<下川委員> 当初は、入寮生が 15 名であると予測していなかった。人数制限して募集することも必要ではないかと考えている。来年度 15 名の入寮希望者がいると全員が入寮できない状況になる。来年度の生徒募集活動が始まるので、この状況を県の教育委員会もどう考えているのか、話を詰めていく必要がある。

<岸 委員> 現状だと最低でも 45 名が入寮できるキャパシティが必要になる。

<白戸会長> 現在のスタッフ 3 名体制では、どのくらいの人数が限界か。

<山口HM> 15 名が限界だと思うが、要所を押さえていけば何とかかなるかもしれない。

<岸 委員> 今後の学習・進路指導体制、卒業時にとれる資格 (旅行業等の資格)、大学との連携、関連企業での実習等を早急に考えて、方向性を聞かせてほしい。寮についてはすばらしい。

<山口HM> メディアに取り上げられて学校の注目度が最近では上がっている。寮の人数が増えるのは村にとっても学校にとっても嬉しい誤算だと思う。今の状況をどう考え、改善していくのかという方向性をしっかりと考えることが大切だと思う。関係者と協力をして対応していきたい。

《白馬高校へ移動》

(9) 生徒会役員との意見交換

＜白戸会長＞最初に生徒から自己紹介を含め「地域に発信したい白馬高校の良い所」「高校生活で自分が成長した点」「これからの白馬高校について」を発言してください。

＜生徒 A＞今回の話し合いを通して、白馬高校の課題が分かると思うので、今後生徒たちで話し合う時のきっかけになればよいと思う。

＜生徒 B＞生徒会役員としての任期は終わりだが、これを最後の仕事として良いものを残していきたい。

＜生徒 C＞以前、生徒会で実施したアンケートで「白馬高校の生徒は大人しい印象を受ける」という回答が多かったが、積極的に行動的な生徒が多いということ、地域の人によく知ってもらいたいと思う。

＜生徒 D＞現在2年生なので高校生活はあと1年半残っている。これからの学校の発展について考えながら参加したいと思う。

＜白戸会長＞「白馬高校はこういう学校なんだ」と発言したい生徒さんはいるか。

＜生徒 A＞しろま祭に参加して下さった方はわかったと思うが、今年は1年生がとても盛り上げてくれた。今年は国際観光科が設置された節目の年として、最高の文化祭をつくりあげようと頑張ってきた。思った以上にみんなが頑張ってくれ、大人しいという生徒の印象とは違ったものを発信できたと思う。

＜生徒 B＞スキー部に所属している。最近部員数が減少傾向にあり心配していたが、今年は白馬中と小谷中のスキー部員全員が白馬高校に入学してくれた。

＜生徒 D＞国際観光科が開科し、県外生が増えたことで、学校全体で生徒の積極性が出てきていると思う。

＜白戸会長＞生徒の皆さんにとって、白馬高校のどんな点が良いのか、発言してください。

＜生徒 D＞私は中学生のころ恥ずかしがり屋で、分からない所を先生に聞く事が出来なかった。白馬高校に入学して先生方と接する時間が増えた。先生がしっかり一人ひとりの生徒を見てくれていると感じて、自信を持って自分の意見を言えるようになった。また、今まで深く地域の事を考えたことがなかったが、生徒会活動に関わったこともあり、(地域について)学ぶことができたのは白馬高校に入学して良かったところである。

＜生徒 B＞先生との距離が近いのはこの学校の特徴。先生たちも生徒の様子をよく見てくれているので、相談したり、悩みなども打ち明けやすい。国際観光科の生徒も、自然にも恵まれ学習環境が整っていると話していた。

＜生徒 A＞学校規模の小さい点も魅力である。3年生は全員の顔がわかり生徒会活動も一人ひとりが役割を持つことができる。また、このような会に参加させてもらうなど、貴重な経験をさせてもらっている。

＜生徒 C＞生徒同士の距離も近いと思う。教室の雰囲気明るいので、自分自身も明るくなっている気がする。公営塾しろま學舎では、LAP組という地域活性化の取り組みを通して地域の特産品を売る活動をおこなっている。今までは地域の事に関心が薄かったが、新しく地域を知るきっかけができたので、白馬高校に入学して良い経験ができていていると思う。

＜白戸会長＞LAP組について紹介してください。

＜生徒 C＞しろま學舎に通っている塾生の9名で活動している。地域活性化を目的として、道の駅白馬にネットショッピングのサイトで特別ステージを設けてもらい、青鬼の紫米と食用ほおずきの加工食品をギフトのセットにして販売し、白馬地域をもっと知ってもらおうと活動を行っている。地域の様子を理解できる点と、生徒が主体となってひとつのものを作り上げていく達成感、充足感も味わえる。

＜生徒 A＞震災復興を目的とした「ぼよんプロジェクト」では、地域の人たちの協力を得ながら、一つのものをつくりあげていくことができた。地域との関わりをもつことは、高校生にとってとても勉強になるし、将来にも役立てることができると思う。

＜生徒 B＞今年の文化祭には消防団やクロスロードなど様々な地域の方々に協力してもらい、とてもうれしかったので、今後もぜひ協力をお願いしたい。

＜生徒 C＞地域との関わりについて、他校の生徒会と意見交換をする機会があった。地域住民や地元中学校と連携している明科高校の取り組みは、とても参考となった。白馬高校でもできたらと思う。

＜生徒 A＞今後、ボランティア活動などで地域の皆さんとの連携を深めていける活動が増えていったら良いと思う。

＜生徒 B＞現在は、地域の皆さんに支援されながら新生白馬高校を創っている最中だが、今後は白馬高校が地域を支えられるような存在になればと思う。

<武田委員>私の子どもが通っていた頃の(しろま祭の)合唱コンクールは全然声が出ていないという話を聞いてきたが、今年、参加して良い意味で驚かされた。先生も出演して会場が一つになっていた。白馬高校は変わった、進化していると実感した。今度はもっと外側に向けて白馬高校の魅力、少人数の良さ、「私たちがやらなければ誰がやる」という自主性を伝えていってほしい。皆さんと話をして、白馬高校の未来は明るいと感じた。

<岸 委員>自分の子どもが高校生の頃の白馬高校の噂を聞いていたが、今年文化祭に来てあまりの違いに驚いた。生徒さんから、先生が一人ひとりの生徒をしっかり見ていてくれるという話があったが、今までそんな生徒の声を聞いたことがない。生徒さんの話から先生方の意気込みを感じた。白馬高校が変わったという声を聞く中で、地元中学のスキー部の生徒が全員白馬に入学したという話があったが、その理由は何か。

<生徒 B>私は県外生だが、白馬の雰囲気がとても良い。部活動(スキー部)を行う環境やサポートが非常に恵まれていると思う。環境とサポートの力が広がってきているのが、他校に行かない理由だと思う。

<横沢委員>合唱コンクールに参加して、先程の皆さんが言われる通り、ステージの印象が以前とは全く変わっていた。特に1年生の様子を見て感動した。国際観光科を開科して新しい学校づくりを始めたことや今回の生徒の皆さんの地域に連携しようという意見を聞いて、この方向で良いのだと実感した。

<奥原委員>5年前にも白馬高校で授業参観をさせてもらったが、生徒がより意欲的に取り組んでいるという印象を持った。その原因は何かと考えるに、今皆さんの話を聞いてなるほどと思った。先生方との距離が近く、自分の意見をしっかりとと言えるようになってきていること。その信頼関係が土台となって今の白馬高校があるのだと思う。そこで大事なものは、黙っていたのでは周りの人にはわからない、今日の学校運営協議会での話を、地域の人に分かってもらうと良いと思う。例えば交流する機会を設ける、日頃の活動等をパンフレットで発信して、意見交換を呼びかける取り組みをしていけば、更に理解が広がり地域の学校として育っていくかと思う。

<宮嶋委員>高校生は自分たちが楽しければよいというイメージがある。私はスポーツに携わり、スポーツに集中して高校生活が終わってしまったが、生徒会の皆さんの話を聞いてこんなに地域の事を考えている生徒はいないと思った。高校生がネットショップで盛り上がってきたが、私の現場でも高校生が頑張っているのだからこちらも頑張ろう、逆に若い人が盛り上がっているから大人も頑張ろうという雰囲気を感じている。

<下川委員>国際観光科が開科し、学校が活発化している様子がわかった。生徒はしっかりと挨拶をして礼儀正しいという良い評判を地域の方々から聞いている。

<松本委員>生徒が勉強や好きなことを頑張って出来るように、最低限支援する立場にいる。村がしっかり支援して皆さんが頑張れば、良い高校になる。村もできる限りやるのでみんなも本気でやってもらいたい。学校運営協議会にも言ってもらいたい。

<横川委員>今回、しろま祭に来て感動の一言だった。八方太鼓も2カ月であのレベルにまで頑張ったし、合唱もとても良かった。今思い出しても涙が出るほど感動した。売店も声も良く出ていて活気があった。数年前の白馬高校の面影がほぼなかった。身なりや挨拶など年々良くなっている。下の学年は上の学年を見て育つので、ぜひ良い雰囲気を残してもらいたい。

<北村委員>4名の生徒に意見を発表してもらったが本当はもっと多くの生徒に参加してもらいたかった。さて、地域貢献活動は、本校の生徒にとって特別な事かそうでないかどちらか。義務感があったか。

<生徒 A、B>義務感ではない。

<北村委員>本校の生徒は義務感ではなく、自発的に活動しているところが素晴らしいと思う。これは、高校からではなく、白馬・小谷小中学校の段階で、素地がしっかり固めてもらっているため、高校に来て花開いていると思う。発表する場をもっと設けていながら、生徒が外へ発信していく力を育てたい。特に2年生は自分の意見を言えるように頑張ってほしい。これからもご協力をお願いしたい。

<白戸会長>これからも是非地域と学校がもっと関わりをもっていってほしい。現在長野県では高校生が地域を変えていく動きがたくさんある。是非皆さん白馬高校の生徒が、白馬・小谷地域をもっと良くするように行動していってもらいたい。

(10) その他

○第3回は10月18日(火)、または11月10日(木)の午後を予定

(11) 閉式の言葉